

青年海外協力隊で経験したこと
ーガーナ共和国でボランティアとして理数科教育に携わってー

梯 泰三

(17-1, ガーナ共和国, 理数科教師, 上板町立上板中学校)

みなさんこんにちは。今ご紹介にあずかりました、徳島県上板中学校の梯泰三と
います。たぶん小さな部屋なので声が通ると思うので、マイクなしで発表をさせて
もらおうと思います。

最初に今日発表させていただく内容なんですけど、10個ほど用意させていただきました。
簡単に紹介させていただきます。一番最初、私の自己紹介、それからガーナの
こと、それから任地はタマレという場所だったんですが、そのタマレについて。それ
からみなさんガーナってチョコレート王国と思われているかもしれませんが本当にそ
うなのかなということ僕なりの考えをこれから述べていきたいなと思ってます、そ
れからなぜ協力隊に参加したのかということ。それから私の要請と活動。これから以
降は本格的に活動のことを話させてもらうんですが、少し授業の様子をビデオで見て
いただけたらなと思っております。それから理数科隊員、教員として派遣をされたの
ので私の任地の学校のこと、実際にガーナの任地の先生たちのこと、それから生徒
のことを話させてもらったあと、最後、今後帰国隊員として私が何ができるかなと
いうことを一緒に皆さんと考える機会にできたらなというふうに考えています。宜し
くお願いします。

最初に自己紹介ですが、17年度1次隊でガーナ共和国に理数科教師として配属さ
れました。配属先はここにもありますが、タマレ市教育事務所というところですが、
日本で言えば市町村の教育委員会かなと思っていただければいいと思います。そこ
でもらった僕の役目というのは、**science and mathematics volunteer officer** 理科と数学
の先生ですよという役目をもらいました。現在は先ほども紹介していただいたん
ですが、徳島県の上板中学校で勤務、お世話になっております。1年生の担任で教科は数
学、陸上部を担当しております。

次、任国のガーナについて話させてもらいます。アフリカの地図がここにあるん
ですが、ガーナってどこかなってみなさんおわかりになるでしょうか。だいたい頭
の中で考えてみてください。どの辺りかな。実はガーナというのは西アフリカと言
われています。ここにあります。西アフリカと言うところにあります。それでクラス
とか学校の生徒たちにはこういうふうに説明しています。いま点線が入りましたが
これは東経0度、北緯0度の線を描いてみました。ということは、ガーナは0度、0
度に最も近い国なので、僕はクラスの生徒には地球のおへそに一番近い国だよ
というふうに説明をしています。次、こちらの方にガーナを拡大した地図があるん
ですが、首都は

アクラです。海沿いのここにアクラがあります。私の任地というのは結構ガーナから遠くて、Northern と書いてありますが、北部州の州都タマレ市というところにあります。首都アクラからはだいたいバスのターミナルに行くと 20 時間くらいと書いてありますが、故障があったりとかバスが出なかったりするもので、だいたい 20 時間から 2 日くらいの間みておけば、僕のタマレには行くことができるんじゃないかというふうに思います。どんどん進めさせてもらいます。ひょっとすると、そこだったかな名前は忘れましたが、メーカーさん、お口の恋人何とかさんが、何とか何とかチョコレートというのをだして、ひょっとしてガーナってチョコレートの国かなって思われがちなんですけど、これはあくまで僕の考え方です。試験などで絶対そうだと思うなと書いてください。ちょっと一緒に考えてみたいなと思います。国際菓子協会というホームページからとってきました。2004 年のデータですが、チョコレートの生産量と消費量、アメリカ、ドイツ、イギリスというふうになっております、チョコレートですね。どこにもガーナというのはこのデータでは入っていません。一方、2007 年の外務省のデータなんですけれど、カカオの生産というところではコートジボワール、ガーナの隣の国ですが、2 位ガーナ、それから近くの国、同じ西アフリカの国ナイジェリアというのが 1 位 2 位 3 位となっております。ということを見ると、僕はガーナはチョコレートの国ではなくて、カカオの国かなというふうに思います。少しこれを発展させて考えると、やっぱりチョコレートがもしくくれる、おいしいなと世界中の人が思ってくれるような国であれば、ガーナという国はもしかしたら開発途上国とは呼ばれないのかもしれないかな、そういうふうな技術を持っていると呼ばれないのかもしれないかなというふうにあるので、ガーナが将来カカオの国から本当にチョコレートの国になれたらなというふうに思いながら活動していたことも事実です。

それから、大体これが僕の任国、任地の話なんですけど、少し話を変えさせてもらいまして、なぜ私が青年海外協力隊に参加をさせてもらったのかということ、話をさせてもらおうと思います。1 番最初なんですけど、やはりボランティア活動に興味を持っていました。大学生の頃、もう 10 年以上も前になるんですけど、学生の頃からボランティア活動、徳島県にいくつか授産センターといわれる障害者の方の施設があるんですけども、そういうところでボランティア活動をしていまして、そういうことがきっかけで大学生の頃からボランティア活動に興味を持っていたということがあります。それから学校に勤めている、この中にも中学校、高等学校それから小学校で勤められる先生方おられると思うんですけど、特に中学校で勤めていると教科指導また生徒指導というのでどうしても悩みというのができます。そんな中でももしかしたら環境の違うところで自分が仕事をする中で、ボランティアとして活動することでまた日本に帰ったときに教科の指導とか生徒指導で何か役に立つようなヒントというのを学べるんじゃないかなということがありました。それから 3 つ目なんですけど、やはりいろんな場所に行くことで人々と出会いとかふれあいを求めてという理由も 3 つ目にありました。こういうような理由 3 つ、他にもあるんですけど 3 つ書かせてもらった

んですが、なかなか青年海外協力隊って一歩踏み出すことってやっぱり難しいと思うんです。遠い場所でもあるし海外でもあるしというところもあって。僕は現職派遣をさせてもらいましたが、なかなか職場の理解が得がたいというところもあるんですが、なんで僕が協力隊に行くことになったかというと、神戸のほうで協力隊の説明会に3年か4年前に参加させてもらったときに、ある参加者の方がこういうふうな経験談の中で私に語ってくれました。世の中で最も教育環境が整っていない場に足を運ぶということが教員、教師としての務めではないでしょうかというような話をしてくれる先生がいて、その言葉を聞いたときにほんと背中を押されたような気がしました。決して行かなければならないと思っただけじゃなくて、あっ僕、教員だから行ってもいいんだって、行ける機会があるんだってというふうな言葉を聞いたときに思うようになって、じゃあ挑戦してみようかなということになっていろいろホームページを調べたりだとか学校の職場の学校長に相談をしたりだとか、JICA 四国の方にお世話になったりだとかということから手探り状態で始まったのが、私の協力隊参加への第一歩になりました。というのが大まかなところなんです。

早速そしたら次はお手元の資料では2ページ目になると思うんですが、本格的に任地での私の活動についてお話をさせてもらいたいと思います。それに当たって1番最初に私の要請と活動についてお話をさせていただきます。まず JICA さんの方からいただいた私の要請というのは、ガーナ発の巡回型理数科隊員としてと書きました。ガーナは私が行くまでは、ほとんどの場合は一高校の教員としてある高校に配属されるというふうな形ですべての理数科隊員が配置されていたんですが、私は巡回型隊員、先ほども言いましたが教育事務所に配属されまして、いろんな学校を担当させていただきました。後から詳しく言わせてもらいますが、担当校は確か小学校で約 100 校、中学校で 80 校ありました。そのあたりの苦労話も今日させてもらえたらなと思っております。それと同時にもう終わったのですが、ガーナでは STM、science、technology、それから mathematics プロジェクトというのがありまして、それを大きな3つの群でそのプロジェクトが行われたんですが、その中の1つであるタマレ市のプロジェクトを支援する、草の根で支援するためにというふうに自分が心の中では噛み砕いていたんですが、そのために JICA さんの方から要請を受けたと思っております。実際にこういうふうな要請をもらって私がどんな活動をしていたかということなんですが、主な活動として理数科隊員ですので小中学校での理数科の授業。目的は2つありました。先生たちの指導力の向上ということと、それから当然当たり前なんですが、生徒たちの学力の向上という2つのことを目標に授業は行っておりました。それからこのプロジェクトとも関連した、ガーナの他の隊員の活動ともいろいろ関連するんですが、ワークショップの開催というのをしておりました。なかなか学校に行っただけでは先生の指導力の向上というのは難しいのもありますので、先生たちだけ呼んできてワークショップの開催というのをしておりました。やっぱり1番は指導主事と書いてありますが、私が配属されていた教育事務所の先生方、それから

学校の校長先生、それからその学校で算数や数学や理科を担当している先生方を集めてワークショップを開催したり、これ理数科隊員の研修の場って書いてありますが、ガーナ今 100 人近い隊員が派遣されていると思います。その中で理数科隊員が開催する大きな行事が 3 つありました。1 つはアコソボ訓練と呼ばれるんですが、簡単に言えば教育実習みたいなものです。それから実験ツアーと呼ばれてまして、全国をめぐって実験道具がないもので隊員が集まって実験道具を用意してバスを借りて実験の道具がない学校に行つてというふうに、隊員が夏休みであるとか春休みであるとかというふうなときに、みんなで集まって隊員同士の研修会ですね、研修会をかねてこのようなワークショップを開催していました。当然この中には理数科隊員だけでなく他の隊員、HIV の対策の隊員、感染症の隊員にも授業をしてもらいました。理数科の授業と関係があると思ってしてもらいました。それから休み時間には楽しいこともしたいなと思ったので、青少年活動の隊員であるとかとにかく隊員をたくさん集めてきてワークショップを開催しました。それから最後に他国のボランティアとの交流の場というふうに書いてあります。ほかの国でもそうだと思うんですが、ガーナにもたくさん他国のボランティアが来ております。この開催したワークショップには VSO イギリスのボランティア団体だと思うんですが VSO、それからピスコ、アメリカのボランティア団体だと思うんですがピスコの方とかにも来てもらって、やっぱり語学の点では彼らにはなかなか敵わないのでそういうふうな英語について教えてもらったりだとか、彼らのアイデアを教えてもらったりだとか、自分たちはこういうふうに思っているんだけどどう思うということで、いろんな人とかいろいろな人と呼んできて自分自身の指導力の向上の場でもありますし、やっぱり先生たちの研修の場をつくりたいなというふうなことで、いろんなことを試行錯誤しながら大きなものとしては年 3 回やっておりました。実際に、ここに書いてるワークショップなんですけど、ワークショップでやっていた、私の授業をビデオに撮っています。たくさん隊員がいたのでビデオを撮ってくれることができました。このビデオを見てもらいたいと思います。ガーナに行ったばかりの映像で、すごく自分自身が緊張しているのがわかるビデオで恥ずかしいんですが、拙い授業で申し訳ないんですが、ご覧ください。

(ビデオ)

すみません。というふうな授業を行っていました。ちなみにこれは JICA さんの方にお世話になって、顕微鏡の使い方の授業をしたんですが、JICA さんの方にお世話になって 100 倍まで見える簡易顕微鏡というのをプロジェクトと関連して買ったものがありましたので、それを利用させてもらいました。非常によかったなと思うのは大きな顕微鏡と違ってこれくらいの顕微鏡だったので持ち運びが便利なんです。いろんな学校にもって行くことができ、僕はこの顕微鏡のおかげで随分助かった思い出があります。今見てもらったビデオで見るとアフリカの学校っていいな、黒板もあるし机もあるし学校に屋根もあるなって思われて、素晴らしい学校であれチョークもあつたじゃないか、黒板に僕が白い字で書けてたじゃないかって思われがちなんです

が、これはやっぱりワークショップでした授業なので、どちらかと言うと施設設備の整った学校でさせてもらいました。実際私が通っていった学校というのは、こんな立派な学校ではなくて、ちょっと見てもらいたいんですが、その前にすみません、タマレの学校の現状をもう一度言わせてもらいます。私の任地タマレは東西南北に30キロ30キロの正方形だと思ってください。その中に中学校が250校、小学校が70校あるそうです。教育長からそのように聞きました。それで私は小学校80校と中学校20校、だから全部で100校を担当しなさいよというふうに言われました。少し話をさせてもらおうと、当然こんなの2年間で、正確に言うと1年9ヶ月で全部担当できることはできないので、僕は中学校4校と小学校4校を担当していました。どういうことかと言うと、週は月火水木金で5日です。そのうち1日は事務所の方に行きたいです。午前中は小学校に行って午後から中学校に行っていました。だから4校4校というふうに、自分の中でたくさん学校を与えてたくさんチャンスは増えたんですが、申し訳ないんですがそのチャンスは8校でしか活かすことができなかつたんですよ、ちょっと残念だなというふうにも思ってるんですが、時間的なことそれからバイクで20キロ片道30キロ走りますのでそういうことを考えると、午前中に1校午後に1校というのが適当じゃないかというふうに僕は判断をしていました。その学校が何ですが、ちょっと写真を見てもらう前に、私の思ったことは、やっぱり写真で見てもらったのですがさっきビデオで持ってもらったものがすごくやっぱりいい学校です。何がいいかと言うと人材の面で書いてあります。やっぱり先生がいます。授業するっていうとその学校の先生が来てくれる先生がいます。ぼくが行ってた学校には生徒はたくさんいるんだけど、実は校長先生しかいないとか、校長先生とあと一人二人先生がいるんだけど、今日は校長先生しか来てないよとか、っていう風な学校がたくさんあったので、やっぱりあの人材の面でいっぱい差があると思うんです。タマレの中でもある学校には完璧に時間割が朝から夕方まで組めるだけのスタッフがいる。でも、ちょっとほんの10キロバイクで走った学校には、生徒がたくさんいるのに校長先生しかいないっていうふうな人材の面での格差。それから2番目は施設・設備の面でっていうふうにも書きました。校舎、施設、設備、それから教材でかなり差があります。これについて少し、写真を見てもらおうかなって思います。一つ、これ、ここにあのこれも私の任地の一つの学校ですが、日本の援助で建てられた学校です。こんなすばらしい学校があります。屋根もあって壁もあってすごいきれいに壁が塗装されているっていう風な学校があります。まあ、町の中心部なんですけど、これも私の学校なんですけど村の学校に行くとこんな感じです。本当に壁なんかいいですね。生徒も制服なんか着てないです。さっきから何度も言ってますが、やっぱり同じタマレの学校なのに校舎や施設・設備の面でかなり違うっていうふうなところがあります。で、実際私が通っていた学校を少し紹介させてもらおうと、こんな学校です。今、写真で見た学校ですね。この学校は、本当にこういう小さい黒板が一つあるだけで、チョークは僕が買って、プレゼントしました。それから、他の学校ではこういう風な屋根が

あってもまあ、ブラック状態のような壁があっても、この学校に僕は、通ってました。で、なんかそうやっていたらなんかちょっとシーンとなって、みなさんがなくなってしまったのが残念なんですけど、実は僕は好きなことがあって、学校までの風景が大好きでした。見てください。バイクで行ってたのですが20キロ30キロこんなまっすぐな道。きもちいですね。まっすぐな平らな道。バイク好きな人がいたら、走りたいなって思われるのではないのでしょうか。それから、途中にはこれ、何の木かわかりますかね。神様がやどる木、バオバブですね。バオバブの木が当然生徒の家にあたりとか、風景、僕はとっても大好きでした。僕は時々風景に目を奪われて、外の前の穴が見えなくて危ない思いをしたりだとか、でも僕はとっても、バイクを走らせるのが好きでした。

時間も迫ってきます。学校の先生についての現状を少しお話させてもらいます。他のアフリカでもそうだったんですが、やっぱり基本的な計算ができない。日本だと完全に最近問題になっていますが、指導力不足教員というような言い方をすると厳しいかもしれませんが、日本の感覚で言うとそういうふうになるんじゃないかなって思います。用語を正しく理解していない。正方形を長方形と教えたり、直方体を長方形と教えたり、という風な用語を正しく理解していない。経験力不足。教材教科がありませんので、当然そういう風なこともない。使い方も当然知りません。残念なことに、やっぱり高い収入を求めて、辞職する人が多いというのもこれは残念なことです。ちょっと見てもらいたいのですが三分の二、二分の一がなぜかこんな計算になっちゃうんですね。二分の一がここに来ると逆になっちゃうんですね。六分の三。こっちを通分した三分の二がなぜかこっちにきっちゃうんですね。こうがきまってなるんですが、三から四を引くとマイナスになるのに、なぜか答えはちゃんと六分の一になるんですね。すごいなって思いながら自分も見てましたが、ちゃんと証拠写真も載っています。彼はこういう風に計算もしてるんですね。でも、これは笑い事かもしれませんがこれがガーナの教員の問題だと思います。これ先生が教えてるっていう、彼だけじゃなくてちゃんと通分ができない先生、計算ができない先生たくさんいます。やっぱり、これを克服していくこと、っていうのがやっぱりガーナの教育の課題であるし、隊員として派遣されていた私自身も何かできることがあるんじゃないかなって考えております。厳しい、現実がここに現れているんじゃないかなって思います。

それから生徒についてです。すいません。これ冗談言うのに作ったのですが、タイミングを逃してしまったので申し訳ありません。生徒について話をさせてもらいます。やっぱり就学率低いです。ある学校長、校長先生と話していると就学率50パーセントっていうふうに聞きました。でも、その中でも乾季、雨季になるとどうしてもやっぱり、さらに生徒減っちゃうんですね。そういう風に考えると修める方の修学って言うのは、もっと低いんじゃないかなって僕は思っています。それから健康面でマラリア、コレラ、ポリオ。健康面で被害っていうのは感染症の隊員らと話していると本当、深刻な問題っていうのが健康面でも衛生面でもあるように思います。でも、

僕はこれが好きでした。生徒たちも明るく、礼儀正しい。ぜひ、今担当している上板中学校の生徒に、生徒たちの姿を見習ってもらいたいものですね。グッドモーニング、先生おはようございますなんて、言ってくれる生徒もいるんですが、うちのクラスは今は全員できていないような気がします。それからやっぱり働き者です。よく働きます。午前中に学校に来て、午後から何か牛を飼ったりであるとか、何か物を売っています。よくよく考えると、牛を10頭ぐらい持っている、平均的なガーナ人の年収にもなると思います。そういう仕事をしているんですね。今、日本の中学生で、年収ぐらいの価値のあるものを動かしながら仕事ができる中学生って今、いないんじゃないかと思います。このあたりを考えると今、学校現場で問題になっている生きる力って考えると、ガーナの生徒、僕のクラスの生徒どっちがあるのかなって考えるとちょっと僕は疑問になるところがあって、どっちかなっていうふうに考えております。生きる力に関してはひょっとするとガーナの生徒の方が持っているんじゃないかなと、なぜかという働く力を彼らは持っているからです。それから、やっぱり高いコミュニケーション能力。積極的に僕に話しかけてきます。言語の学校に通っていると英語、現地語の2カ国ですが、二つの言語二カ国じゃないですね、二カ国に言語が話すことができます。たぶん、日本の中学生で、英語と日本語が不自由なく、使える生徒は少ないと思うので、コミュニケーション能力の点でも、日本生徒がガーナの生徒に比べると劣っているかなっていうふうに私は思います。

それから時間もせまっています。やっぱり問題は十分な教育を受けられない。どうも同じような発表が続いていますが、ガーナでも同じようなことを感じて帰ってきました。最後になりますが、私が今度は帰国隊員としてできることですが、考えていることです。当然、国際理解教育とか、人権教育を通じて私がしてきた経験というのをクラスの生徒、それから現在勤務している学校の生徒。徳島県の生徒。まあ、できれば日本の生徒に伝えていければいいなってというのが私の目標であります。幸いなことに徳島県の人権教育のテキストには、名前を忘れたのですが、ザンビアでエイズの隊員だった方の、指導っていうのは載っております。それを子供たちに見せながら僕もこれやったんだぞって言うところに、青年海外協力隊のところにマークせよなんて授業では、人権教育のほうではやったりもしております。それからできれば国内でのボランティア活動。学生のころから好きだったので、JICAさんの活動以外になるかもしれないんですがボランティア活動もできたらなって感じで続けて、何かのボランティア活動ができたらなって思います。それから奨学金への協力って書きました。あの、理数科隊員がガーナは多いので、奨学金をJOCVが、つくっております。それに、少しなんですけど、正直金額で言うと年間五千円くらいなんですけど、それが授業が払えると思うので、一人の生徒の。五千円ぐらいずつこれも協力できたらなって思います。それから最後ですが、これは難しいですが、まあ僕の年齢からいくともう一回くらい、行こうと思えば、協力隊に行けるかなと思います。あの、妻に言うと怒られるのでここで言いますが。また行こうって言われそうなんですけど、まだ行ける年齢かな

って思っています。四つ目はでもたぶん厳しいかなって思っています。発表を終わらせてもらうのですが、最後にもしかしたらこれから派遣される方がいるかもしれません。最後に僕が言いたいことは、僕の友だちから帰国後よく聞かれます。あの行ってきてよかったかって。僕は、自信をもってよかったと答えています。行ってきてよかったか悪かったか、いろんな苦勞もあったし嫌なことも正直言ってあったのですが、僕は協力隊に参加して非常に良かったなと思っております。以上で発表を終わらせていただきます。ありがとうございました。